

中心市街地活性化広場公園整備事業(いわき駅周辺地区)

(仮称)磐城平城・城跡公園基本計画



令和元年10月

福島県いわき市

公園整備の基本方針

(仮称) 磐城平城・城跡公園は、「いわきを象徴する場所」、「歴史を語り継ぐ場所」、「いつでも誰でも楽しめる場所」として整備するとともに、公園の整備・管理・運営において、市民が積極的に参加することにより、継続的な賑わいの創出を目指します。

基本テーマ

共に創り・育て・伝える新しい^{いわき}以和貴の「本丸」

基本機能

- ① 市民が自分たちの街の歴史を振り返り、新たにいわきを知るきっかけとなる「歴史・文化拠点」としての機能。
- ② 中心市街地における貴重な緑のシンボルとして、四季を彩る緑豊かなランドマークとなる「緑の拠点」としての機能。
- ③ 市民や来訪者の思い出づくりや、憩いとやすらぎを得ることのできる「地域のコミュニティ拠点」としての機能。

空間構成(ゾーニング)に関する基本方針

文化交流ゾーン

いわきの歴史や日本伝統文化に触れることにより、地域への理解を深め、地域の魅力を高めるとともに、季節の変化が感じられる植栽などを楽しみながら、休憩・休息ができる「地域コミュニティの場」の創出を図ります。

(主な公園施設：体験学習施設、庭園)

歴史伝承ゾーン

磐城平城の本丸として、江戸時代から当該地の変遷を見守り続けてきた歴史的な空間の中で、多様な野外活動や地域振興イベントの利用に供することにより、「いわきの歴史に思いを馳せる場」の創出を図ります。

(主な公園施設：正門、本丸広場、ステージ)

自然散策ゾーン

磐城平城の遺構の一部(白蛇堀)が現存する自然環境の中で、眺望や散策を楽しめる「憩いとやすらぎを得られる場」の創出を図ります。

(主な公園施設：白蛇堀^{はくじゃ}、憩いの広場、アプローチ階段)

意匠に関する基本方針

江戸期の城郭イメージを基本とし、新たに導入する施設の意匠が際立たないよう、歴史(時間の経過)を感じられる自然素材や色調、質感を持つ意匠を基本とします。

デザインコンセプト

和風を基調とした重厚感のある素朴な意匠

公園基本計画図



ゾーニング計画図



[図1 基本計画図]

アクセス・動線計画

凡 例	
.....	公園アクセス動線
————	バリアフリー経路
.....	散策動線
●●●●	サイン



[図2 動線計画図]

■ バリアフリー経路

広場ごとに設置した出入口及びおもいやり駐車場と主要な公園施設間の経路については、バリアフリー化を図ります。

■ おもいやり駐車場

歩行が困難な方が駐車するスペースとして、おもいやり駐車場を設置します。なお、車で来園する方については、周辺公共施設（いわき駅北口駐車場等）の利用を促します。

<おもいやり駐車場計画台数> 東側：2台、西側：2台

■ サイン（標識）

来園者に園内の情報を伝えるとともに、利便性の向上及び「いわきの歴史」を知る機会の創出を図るため、磐城平城に関する解説サイン等を設けます。

<サイン種類（主な機能）>

- 園名サイン（園外からの誘導）
- 案内サイン（園内の経路及び公園施設の案内）
- 誘導サイン（園内の誘導）
- 解説サイン（磐城平城に関する説明）

主な公園施設計画

門

正門については、来園者が「城に入る」イメージを持つことができる落ち着いた「和」の印象を与える意匠とします。また、東門については、自然散策ゾーンへの入口となるため、自然的景観との調和が図られ、かつ城跡地としての雰囲気創出が可能となる意匠とします。



【 図3 正門イメージ図 】

園路広場

園路については、園内を快適に散策するための機能性を確保するとともに、歴史・自然資源を有する当該地の風致を維持できる舗装材を選定します。

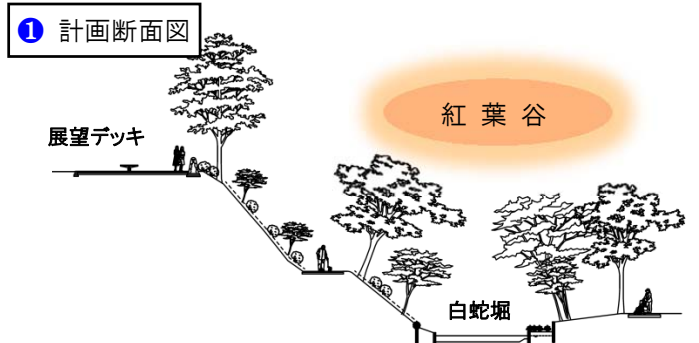
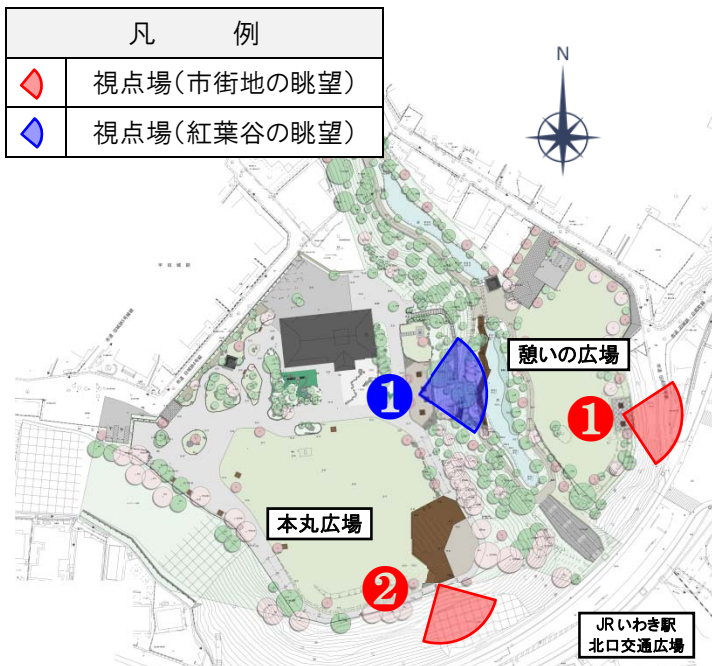
また、広場については、これまで当該地で実施されてきた地域振興イベント等を踏まえ、多目的な公園利用が可能となる芝生のオープンスペースを設けます。(本丸広場、憩いの広場)

< 舗装区分 >

- 文化交流ゾーン** **歴史伝承ゾーン** : 砂利系舗装 (現状の雰囲気を踏襲した景観性)
- 自然散策ゾーン** : 土系舗装 (自然の雰囲気に調和する景観性)

展望デッキ

磐城平城本丸跡地として、現在も維持されている地形特性(土塁)を活かし、市街地や園内の展望を楽しむことのできる視点場を設置します。



【 図4 視点場配置図 】

体験学習施設

本市の歴史・文化に触れることができる特色ある公園づくりにおいて、重要な役割を担う本施設については、多様化する公園へのニーズに対応する機能を設け、地域の方々や中心市街地に訪れる方々の来園意欲向上及び公園の魅力向上を図ります。

<施設機能>

- 地域の歴史を伝承する場としての機能（本市の歴史を学び・伝える場）
- 日本伝統文化の活動の場としての機能（茶道、華道、書道等の体験・交流の場）
- 市民や来訪者の交流の場としての機能（来園者が気軽に立ち寄れる休憩・休息の場）
- 公園管理者の管理事務所としての機能（受付、管理事務所等）

■建物意匠

本公園が創出する良好な景観との調和が図られ、磐城平城本丸跡地の歴史的な価値を向上させるに相応しい品格ある「和」を基調とした意匠とします。

建物意匠テーマ 「磐城」のおもてなしを感じられる 趣のある和風建築物



【 図5 体験学習施設イメージ図 】

施設概要

■構造

木造平屋建て

■延床面積

約 300 ㎡(90 坪程度)

■主な諸室規模

①和室
約 47 ㎡(10 畳×3 部屋)

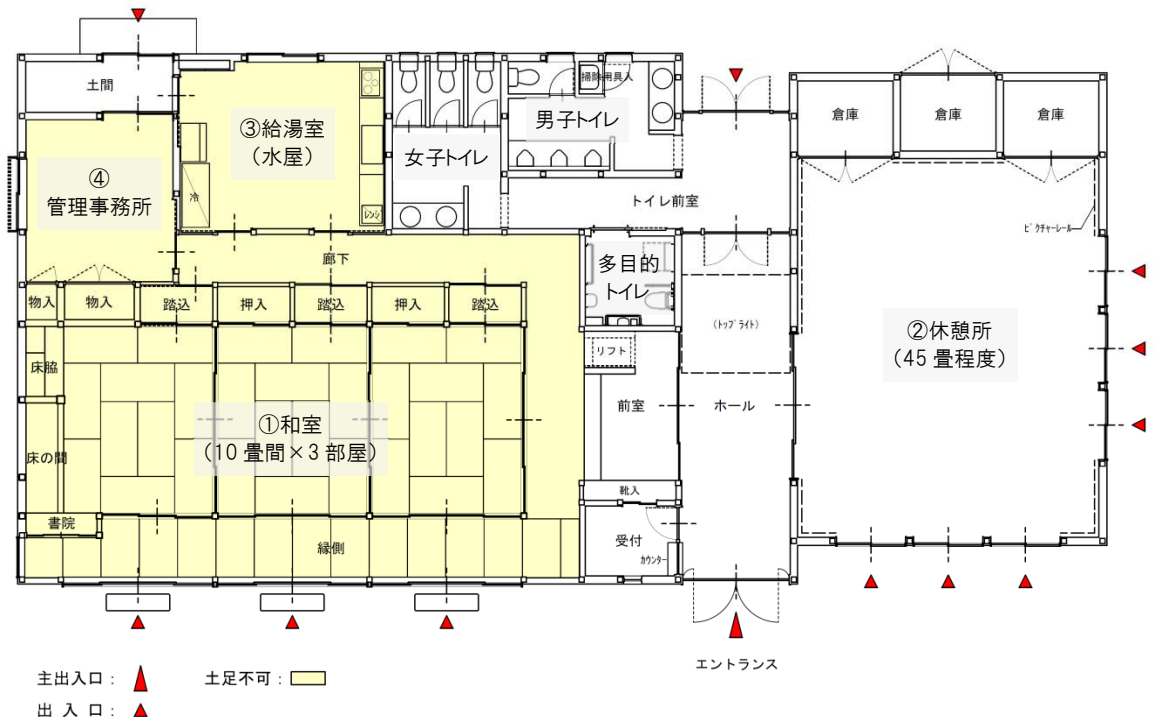
②休憩所
約 70 ㎡(45 畳程度)

③給湯室(水屋)
約 20 ㎡(13 畳程度)

④管理事務所
約 15 ㎡(10 畳程度)

○トイレ

男子:大 1 基、小 3 基
女子:3 基
多目的:1 基



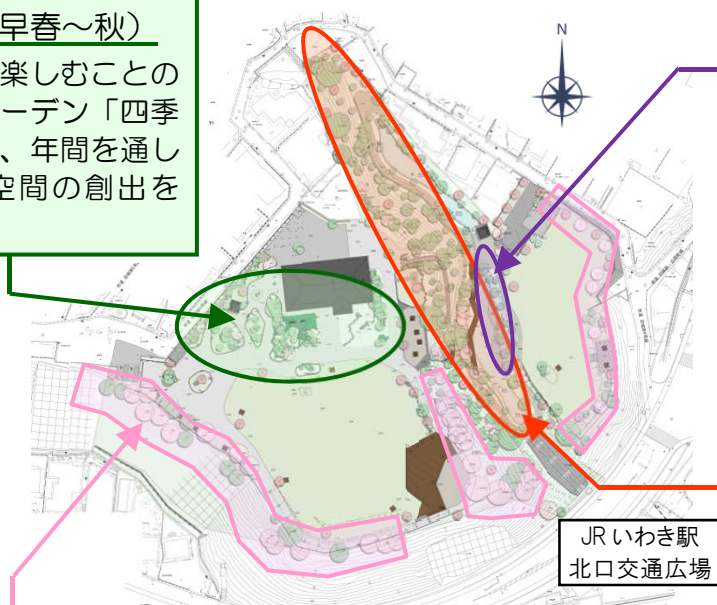
【 図6 計画平面図 】

植栽

既存樹木の景観を活かしながら、季節ごとに特色のある植栽計画とすることにより、JRいわき駅周辺地区における貴重な緑のシンボルとして、魅力ある景観の創出を図ります。

■ 四季の庭（早春～秋）

季節の彩りを楽しむことのできるテーマガーデン「四季の庭」を整備し、年間を通して見所のある空間の創出を図ります。



■ 白蛇堀の^{あやめ}菖蒲（初夏）

アヤメで修景されていたとされる磐城平城往時の景観を白蛇堀で再現します。

■ ^{もみじ}紅葉谷（秋）

紅葉谷の計画区域には、既存木としてイロハモミジが主体に生育しているため、オオモミジなどの葉色・葉形の異なるモミジを取り入れることにより、色とりどりの紅葉谷景観の創出を図ります。

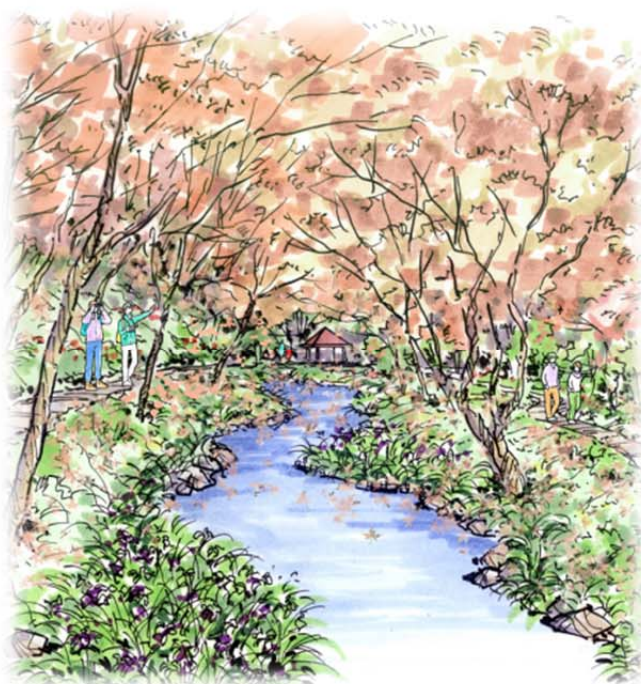
■ ^{たいらじょう}平城の桜（春）

既存の桜景観を更にイメージアップするため、ソメイヨシノなどを補植するとともに、ベニシダレなどの開花時期の異なる品種も植栽することで、いわき市の新たな桜の名所づくりを目指します。

【 図7 植栽計画図 】

白蛇堀

磐城平城の遺構の一部である白蛇堀を明るく健全な水辺空間として再生させ、市民の憩いと散策の場の創出を図ります。



【 図8 白蛇堀イメージ図 】

アプローチ階段

JRいわき駅に近接する立地性を最大限に活かすため、駅から最短にアプローチできる階段を設置することにより、公園へのアクセス性の向上を図ります。

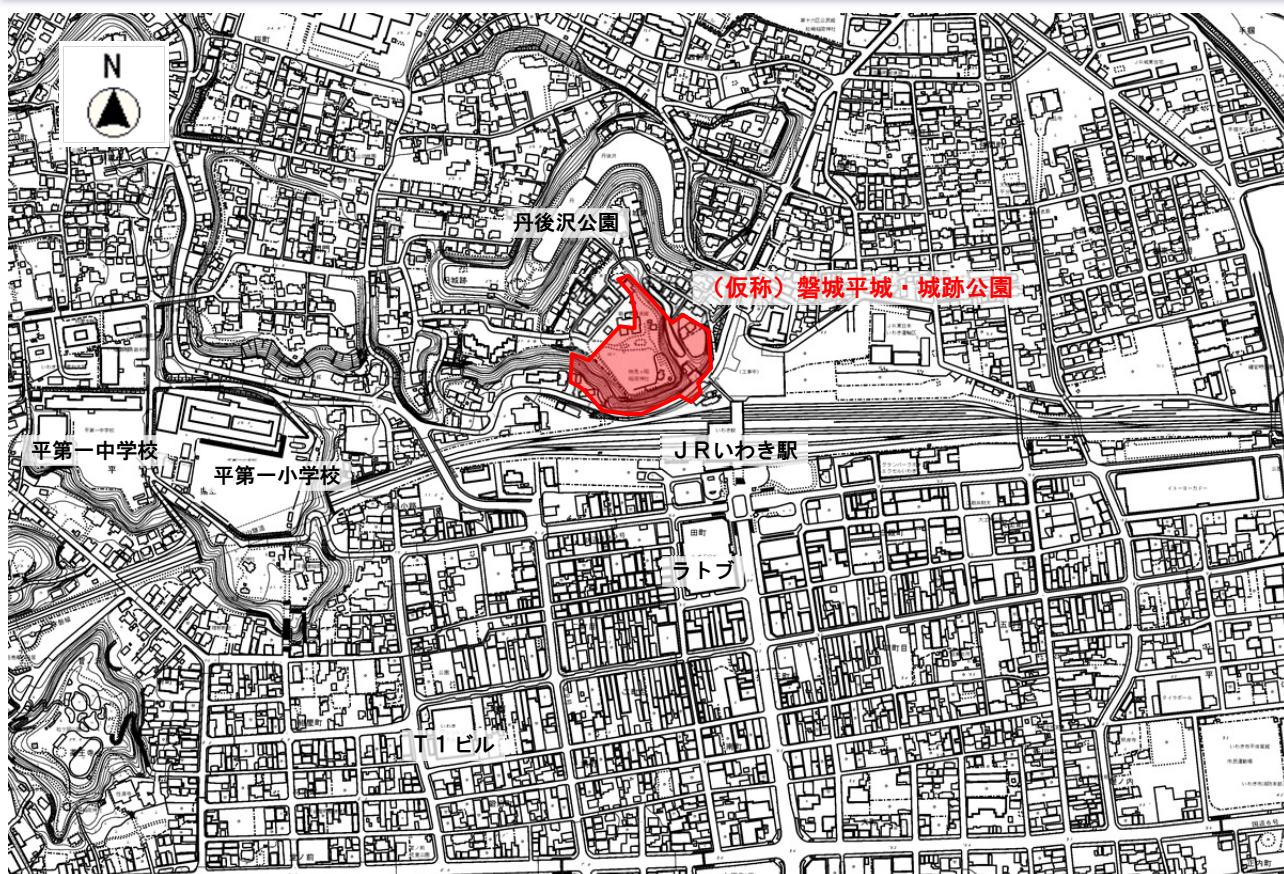


【 図9 アプローチ階段イメージ図 】

公園概要

事業名称	中心市街地活性化広場公園整備事業(いわき駅周辺地区)
事業年度	平成29年度～令和3年度(予定)
概算事業費	約15億円(予定)
公園名称	いわきたいらじょう しるあと (仮称)磐城平城・城跡公園
公園種別	近隣公園
公園面積	約1.5ha(いわき市平字旧城跡17番1外)
主な公園施設	<ul style="list-style-type: none">・園路広場(園路広場、展望デッキ、アプローチ階段等)・修景施設(植栽(庭園)、白蛇堀等)・休養施設(四阿、野外卓、ベンチ等)・教養施設(体験学習施設)・便益施設(トイレ、駐車場等)・管理施設(門、柵、サイン等)

位置図



担当 いわき市 都市建設部 公園緑地課

住所 〒970-8686 福島県いわき市平字梅本21番地

電話 (0246)22-7518(直通) FAX (0246)22-7568